

【灯】 「夏の風物詩」  
<2022/8/17 大分合同新聞掲載>

日本銀行大分支店長の徳高康弘（とくたかやすひろ）と申します。6月に当地に着任して以来、あっという間に時間が過ぎ、気が付けば夏休みも後半になりました。

今年は、全国各地で3年ぶりに夏祭りが開催され、たくさんの人でにぎわっています。大分市内でも、5～7日に「大分七夕まつり」が開催され、大いに盛り上がりました。浴衣姿の子どもたちの晴れやかな表情がとても印象に残っています。

私は大阪市の出身で、地元神社の夏祭りでは、獅子舞で街を練り歩くのが習わしです。子どもは小型の獅子を使うのですが、小学校高学年の頃に、道中で声をかけられ、大人用の獅子を託してもらったことがありました。子どもながらに、認めてもらえたうれしさと、えも言われぬ責任を感じたのを今でも思い出します。

各地で長年続いているお祭りは、豊作・豊漁や地域の発展など、さまざまな願いを込めて開催されてきました。他方、今日では、普段顔を合わせる機会の少ない者が集い、語らって、地元の良さやありがたみを再認識できる、そういう「場」としての意義が強まってきているように思われます。

今年も残念なことに新型コロナウイルスの影響で、祭りの規模を縮小したり、行事を見合わせたりした地域もありました。早くこの感染症が収まって、心からお祭りを楽しめる日々が来ることを願っております。

（日本銀行大分支店長）